



# 小田高 11 期通信

2008 年 10 月 1 日発行

第 2 号

*In the center of your heart and my heart, There is a wireless station; So long as it receives messages of beauty, Hope, cheer, courage and power From men and from the Infinite, So long are you young.*

## 小田高 11 期通信と改名

編集者代表：

今道 周雄

暑かった夏も瞬く間に過ぎ、「小田高 1146 通信」をお届けしてから早くも半年が過ぎました。第一号は 11 期 4 / 6 組の同期生に送る通信のつもりで始めたのですが、他の組の方々からもご支持を戴きましたので、第二号からは 11 期の皆様に広くお届けする通信として改名をいたしました。費用の関係から電子版のみの発行としています。発行のお知らせもメールで行うため、同期生で未だメールアドレスを登録していただけない方がいれば是非登録をお勧め願います。登録先は [cimamich@juno.dti.ne.jp](mailto:cimamich@juno.dti.ne.jp) です。

### 介護保険について

4 組 江口恵一郎

[keguchi@kuc.biglobe.ne.jp](mailto:keguchi@kuc.biglobe.ne.jp)

寄稿させて頂く事になりましたが、予めお断りしておきます。高齢者の介護に関する課題は多く、各課題に対する提起ならびに解決策の提案など詳細に検討・提起することは難しく今回、介護保険に関して少しでも関心を持って頂ければと課題の一部を簡潔に提起する事に致しました。

我々の年代になりますと多かれ少なかれ、医療・介護制度の世話を受けると言うのです。

現状では高齢化の進行により、要介護者、中でも軽度の人々が急増しているようです。また、介護期間の長期化や介護者の高齢化が進む一方で、家族だけの介護では非常に厳しい状況になっているようです。

これからの高齢社会において、家族の介護負担の軽減を図るためにも「介護保険」・「介護サービス」を上手に活用して、介護が必要になっても少しでも、その事態に対応するための心構えが必要であると思うのです。

はじめに介護に関する「介護予防の必要性」と「介護保険制度」の一部及び「課題の一つ認知症」の一部を簡潔に採り上げてみました。

○ 「介護予防の必要性」

元気な人も、支援や介護の必要な人も、生活機能の低下や重度化を防ぎ、自分らしい生活を実現できるよう支援が必要である

こと。高齢による衰弱や骨・関節系の疾患などが要介護の主要な原因となっているようです。

そのために、先ず生活機能の低下が軽度である早い段階から継続して、地域包括支援と予防的な事業やサービスの提供を上手に活用する事なのです。また、「生活不活発病（廃用症候群）」という要介護への移行及び寝たきり、認知症悪化の原因の悪循環を断ち切る事が必要とのこと。

○ 「介護保険制度」

従来「高齢者介護制度」は福祉分野と医療分野に分かれていました。「介護保険制度」は従来福祉分野と医療分野が統合されたものです。介護が必要になっても住み慣れた地域で、できる限り自立した生活が送れるように、不安や負担を社会全体で支え合うためにつくられた制度です。

しかし、現実「介護保険制度」の充実には、ほど遠いと思います。介護を必要とする高齢者数や、必要とされるサービス内容など地域の特性があるので、結果的に介護保険料の地域差が生じること。

また、介護する側も「介護保険制度のしくみ」や「地域支援事業」などを認識することによって、「介護保健」・「介護サービス」を上手に活用して、家族の介護負担を少しでも軽減する生活が送れるようにすることも必要であると思うのです。

「地域支援事業」は、介護予防事業と包括的支援事業があり、全ての高齢者を対象とし、介護が必要な状態になる以前

### 目次

- ・ 介護保険について  
江口恵一郎
- ・ 原子力時代を迎えて（1）  
太田 充
- ・ 小田原で住宅の設計が出来れば  
大倉富美男
- ・ 趣味悠々  
川崎 虔右
- ・ 短歌と私  
榮 憲道
- ・ デジカメ持ってデタラメ探し  
吉田 明夫
- ・ 田舎原点  
広瀬 龍一
- ・ 富士山に登ろう  
小澤敦男

から適切な予防活動と地域に於ける包括的、継続的マネジメントを強化する。

### ○「課題の一つ認知症」

認知症の事も問題になっています。介護付き有料老人ホームでは、認知症による行動障害で、他の入居者に迷惑をかける状態になると、集団生活が困難との理由で契約解除に関する条項がある。また、ホームによって、著しい行動障害のある人など他の入居者や職員に危害を及ぼし、通常の介護や接遇で防止できない場合、事業者から入居契約を解除、退去に至るケースもあるようです。

認知症の親を介護され看取られた方によると「出来る限り自宅で世話をしていましたが、徘徊が始まったので一人では無理だと思い、有料老人ホームなどを探したところ、徘徊を理由に断られるところばかりでした。現実には認知症につきものの徘徊に対応できないホームが多いのは問題です。

入院後、病状に対して正確な診断・治療を受けられず、悪化して結局亡くなってしまいました。高齢者にとって体のあちこちが弱ってくるので、『介護も医療も同時に提供してくれる場所』が多くあれば良いと思う」と話されています。

首都圏のホーム施設長は『総力を上げて取組んでも限界がある。不本意だが限界を認め、その人にとって少しでも着ける移転先を探す事も、受け入れたホームの責任ではないか』と話している。

◎ 終わりにあたって、金城大学副学長、社会福祉学部 井上千津子教授の「ことば」をお伝えしようと思います。

『介護は耐えるものでは有りません』

「ひとりで抱え込まないで！ひとりで悩まないで！介護はゴールの見えないマラソンのようなものです。自分だけの力で頑張ろうとすれば、息切れしてしまいます。周囲の協力を求め、積極的に介護サービスを利用しましょう。本人も家族も、共に長生きを喜びあえるように、(ひとりのある介護環境)を実現できたらいいですね」

○「介護保険」につきまして、皆さまと少しずつ課題を提起して、いろいろな意見を出し合うのは如何でしょうか。

## 原子力時代を迎えて (1)

4組 太田 充 turuturu@os.rim.or.jp

「人体が毎秒7000発もの放射線を出していること、知っていますか？」

私は30年来、「核融合」の研究開発に従事してきましたが、身近に接してきた「核分裂」(一般の方々の言う原子力といえば、通常核分裂発電炉を意味します)を紹介して、皆さんに原子力を親しみのあるものを感じていただこうと寄稿しました。と言うのも、あまりにも一般の方々の原子力に対する無理解が、将来の日本を危うくする方向に向かわせることを懸念しているからです。

### 【原子力はどうして嫌われるの?】

昨今の石油高騰でガソリン1ℓ当たり200円の時代を迎え、且つ、洞爺湖サミットでのCO2削減、環境問題を見聞きすると、通常感覚であれば石炭、石油の火力発電に代わる原子力発電に思いを巡らします。すでに中国、インドは原子力発電に大きく舵を切りました。米国、ロシアも原子力発電を加速させています。

しかし、日本では原子力に対する理解が未だ得られず、機運も盛り上がりません。と言うのも「放射性廃棄物」「トイレなきマンション」「子孫に負の遺産を残すな」「放射能毒物」などと書き立てられ、忌み嫌われているからです。

新潟県の巻原発の建設計画が白紙に戻され、三重県の海山(ミヤマ)町でも住民投票で建設計画が消滅しました。多額の補助金で町の財政を改善しようと、放射性廃棄物の最終処分場として「地盤が適しているのか、いないのか調査してもいいですよ」と名乗りを上げた高知県東洋町の町長さんは、住民のリコールを受け落選してしまいました。

これも日本では、「むべなるかな」の結果です。と言いますのも、放射性廃棄物の中には、放射線の強さが半分になるのに数万年かかるものもあります。「誰が数万年後まで地下深くに埋められた廃棄物の健全性を保証するのですか」という強い原子力への反対意見があります。誰もこれには反論できません。その上、原爆の洗礼を受けた我々は、原子力の危険性や恐ろしさを肌で実感しています。

### 【主婦や学生の、原子力に対する恐怖感覚】

ある新聞に主婦が投稿していました。知人に放射線治療を受けたことを話したら、「自分も被ばくするから近寄らないで！」と言われたとのこと。人間の身体が放射線を常に発生させている事実を知っていれば、何の心配も要らないことは明らかなのですが、このような方々が原子力発電に賛成するのでしょうか。

また、先進国で構成されているOECDといわれる国際機関から、10年ほど前に、あるアンケート調査の結果が報告されました。

米国で、婦人有権者同盟の会員及び大学生に30の活動や製品の中から最も危険だと感じるものは何かとのアンケート調査を実施しました。30項目の中には、銃、飛行機、自動車、アルコール、喫煙などがリストアップされていました。結果は皆さんの想像通り、婦人有権者同盟、大学生ともに最も危険な項目の第一位は原子力発電でした。米国で、1年間に銃による犠牲者が一万人を超えていても、また、これまで米国で稼動してきた原発による死者が一人もいなくとも、感覚は全く別の判断をします。先入観を持たない人から見れば、この判断は理解に苦しみます。

一言付け加えておきますと、米国原子力エネルギー協会が2004年末に実施した米国一般人へのアンケート調査では、原子力発電の支持は67%で、

26%の不支持を大きく上回ったとのこと。原子力発電に対する国民の信頼も、現実を理解するに従い着実に回復しつつあると言えます。

先ほど「子孫に負の遺産を残すな」との反対意見をお話しましたが、青森県で講演した折、私の前の講演者に対して、同じ言葉で原子力反対の意見を発言されたご婦人がおられました。その講演者は、その発言に対して「それでは私たちが限りある石油や天然ガスを使い切ってしまう、子孫には天然資源を残せない状態を、負の遺産とは言わないのでしょうか」と回答しておりました。皆さん、石油や天然ガスが手に入らない社会を想像できますか。

#### 【放射線は、適量であれば人体を活性化】

お酒は、少量であれば百薬の長ですが、大量に飲むと命を縮めます。また、薬は適量が決められており、多量に飲むと命に響きます。これと同じで、放射線も少量であれば、ホルモンのように人体を活性化させるということで、これを「放射線ホルミシス」と呼んでいるのですが、少量の放射線を浴びたときの人体への影響を調べる研究が進んでいます。ガンの治療に効果があるとか、アルツハイマー病、糖尿病、ウイルス性肝炎などの難病の進行を抑えるとか、人体の免疫機能を高めて、「アンチエイジング」と言われるように、老化を抑制するなどの効果が報告されています。

以前、青森県の職員から「県境にラジウム温泉があるが、戸板で運び込まれた人が帰りには自分の足で帰って行った」という話を聞かされました。今から考えると、青森県に近い秋田県の玉川温泉ではないかと推察するのですが、多くのガン患者も含めて年間数十万人の方々が湯治に、療養にと訪れています。昔から、人はラジウムが放射線を放出していることを知らなくとも、その効用は知っていたわけです。

#### 【世界の放射線保養地は人でいっぱい】

また、世界に目を向けますと、オーストリア・ザルツブルグの南にバドガシュタインという、標高1000メートルの町があります。ここはオーストリアで最も伝統のある温泉保養地で、長くハプスブルグ王家の湯治場であったところです。

山には金鉱があり、第二次大戦まで金の掘削が行われてきました。鉱山の仕事はきついのが当たり前ですが、坑夫が坑道で働くと、不思議と気分が爽快になり、疲れも翌日に持ち越すこともなかったのです。また、風邪、リウマチ、喘息などが改善されると評判になっていました。

戦後、大学の研究チームがバドガシュタインの天然ラドンに病気回復の効果があることを突き止めました。そして、一躍世界に名前が知られるようになったわけです。

バドガシュタインを訪れた友人の話では、あるご婦人に会った折「自分は自宅ではほぼ寝たきりの動くことがままならぬ体であったが、ここに来て医者の方箋に従って療養した結果、このように急な階段で

も一人で歩けるようになりました」との話を聞いたそうです。先ほどの玉川温泉での話と同じ効用です。ちなみに、バドガシュタインの大気中のラドンの濃度は、あの有名な鳥取県三朝（ミササ）温泉の100倍以上とのことで、療養には医者の方箋が必要と聞いています。

また、南米のブラジルではリオデジャネイロの北に隣接する大西洋岸にガラバリという町があります。そこは、通常の10倍以上高い放射線地域です。海岸は「奇跡の砂浜」とも呼ばれ、世界各地から多くの避暑客・湯治客が訪れ、海岸に寝そべり、砂風呂のように砂をかけて、ひと時を楽しんでいます。砂の表面の放射線の強さは、最大で通常の400倍との報告もあります。原発から出る人工の放射線の規制値に比べ、自然の放射線は10倍も20倍も高くとも許されているのが現状です。

#### 【飛行乗務員は、時差にもめげず、いつも笑顔で澁刺】

皆さんは、1999年に起きたJCO事故を知っていますね。日本における最大の原子力事故で、放射線で2名の作業員が亡くなった唯一の死亡事故です。私が勤務していた研究所はJCOから600mのところがありました。

JCO事故の3週間後に、この研究所の施設を一般住民へ公開する日がありましたが、受付で待機していた私のところへ、あるお母さんが訪ねてきました。「息子が事故当日、夜勤明けでずっと自宅で寝ていたが、被ばくは問題ないでしょうか。心配で、心配で夜も眠れません」という質問を受けました。被ばくは事故現場からの距離で決まりますので、「自宅はJCOからどのくらい離れていますか」と聞いてみたところ、600mぐらいという返事が返ってきました。

「それなら全く問題ありませんよ。息子さんが太平洋を飛行機で往復したときに受ける被ばくよりも少ないですよ」と返事をした瞬間に、お母さんの顔がパッと明るくなり、「今日から安心して眠れます。これからすぐに近所の人にも知らせてあげます」と言って、帰っていかれました。

皮肉なもので、原子力施設内部で働く職員よりも、国際線に乗務している飛行乗務員の方が、放射線の被ばく量が多いのが実体です。というのも、高度1万メートルの上空では、宇宙線の強さは、海面より150倍ほども大きいからです。しかし、飛行乗務員は時差にも負けず、何時も笑顔で、澁刺とした態度で我々に接してくれます。私は、これこそホルミシス効果ではないかと考えているのですが、理解が得られるところまでは至っていません。

#### 【人体は常に放射線を発生させていることを知っていますか？】

皆さんは、普段放射線を意識していないと思いますが、実は非常に身近なところに放射線があります。それは、皆さんの体内です。皆さんの体の中にはカリウム40とか、炭素14と言う放射性物質が存在します。半減期が12億年のカリウム40は、しい

たけ、昆布などに多く含まれていますから、誰の体にも存在します。また、半減期が5730年の炭素14は、古代の遺跡の年代測定に利用されています。発掘された炭化米や木材から年代が分り、古代史の解明に貢献しています。これらの放射性物質から体重60kgの人間ですと、毎秒7000発ぐらいの放射線を放射しています。これを7000ベクレルといいます。ですから人体は自然の放射線源ともいえます。

また、柏崎原発のトラブルで、当初「放射線漏れはありません」、次に「海に6万ベクレルの放射能が放出されました」「6万ベクレルは誤りで、9万ベクレルに訂正します」との東電の相次ぐ発表に新潟県の知事は怒っていました。これでは魚が売れなくなると。

皆さんが10人海水浴を楽しむと7万ベクレルの放射能が海に浮いていることになります。これで魚が売れなくなるのでしょうか。「9万ベクレルとは15人が海に浮かんでいるよりも少ない放射能の量ですよ」と知っていれば、何の心配もなく魚を食べることができると思うのですが。

今回、原子力時代を迎えるに当たって「いたずらに放射線を怖がらなくてもいいですよ」というお話をしてきました。実は本当に恐ろしいのは、原子力の最大の弱点である核テロです。今回の投稿が許されるのであれば、長崎や広島に落とされた原爆を紹介しながら「米国や世界は、北朝鮮の核をどうして怖がっているのか」をお話します。

## 小田原で住宅の設計が出来れば

6組 大倉富美男 ok-design@kzd.biglobe.ne.jp

定年がないこともあり、まだ同じ仕事をしています。これまで自分の仕事を説明するのに、とても苦労してきました。私の「本業」は、建築も含むプロダクト系デザイン業で、NPO法人の「日本デザイン協会」の理事長をやっていて・・・等というだけで混乱し始めます。この職能観はイタリアで貰ったのですが、マルチにいろいろ出来ると、社会的にも位置づけが難しくなるようです。そもそも「デザイン」という言葉自体が現在は拡散してしまっていて、建築家やデザイナー間でも混乱している始末なのです。

最近よく思うのは、難しい話をそのまま生で出すのでは、関心の無い人は逃げてしまうだけ。それに日本文化と産業に関わる本質論は、今の日本では何でもとても難しい。そのことにうまく対応するには身近な、誰にも関係のあることで関わりを持つほうが、理解もしてもらいやすいし、はるかに自分の得

心が行く場合が少なくない、という当たり前のことです。

そこで今、小田原でやりたいことは、住宅の設計です。住宅は、庶民の一生一代の大仕事ですが、建築家にとっても、設計業務と知識の集大成なのです。個人の生活に密着していること、生活のいろいろな機能が一緒に詰まっていることを考えるだけでも、大きな施設などの必要最小限条件だけを揃えた機能版なのです。

建てる方の個人の事情や思いが、何らかの仕方で空間の条件を決定して行きます。こういうことが打ち合わせを通じてやれば、難しい話をしなくても、いいものを造る、更には美しいものを作ることが体感されてくるでしょう。もちろん、建築家がやるリフォームでもこれは可能です。

耐震偽装事件以来、建設業界は低迷しているし、住宅の多くがハウス・メーカーで建てられているので、建築家による新築も競争にさらされていますが、チェック・リストに性能と値段だけでない何か（＝単純にコスト高ということではありません）を求めている建て主さんに出会うことで、少しでも日本の現状からのグレード・アップを願っているのです。お知りあいなどで、家を建てられる方、リフォームを考えていられる方がいればご紹介下さい。

こうして、私はまだ自分に課された専門の分野で働いています。電器メーカー・デザイナーで出発し、6年で退社以後、N.Y. とミラノに合わせて10年あまり。海外の設計事務所でも仕事をし、帰国後は東京で設計事務所をやり、浜松の大学で教員もやってきましたが、まだやり残していることがたくさんあります。ホーム・ページやブログも覗いていただければ幸いです。そこに出しているもののいくつかをご紹介します。



イタリアでやったプラスチック椅子（1957年）  
今でも樹脂成形で椅子を作るのは大ごとです。

## 趣味悠々

4組 川崎 虔右

HQQ07705@nifty.ne.jp



表参道のど真ん中にある楽器メーカーの基幹  
ショールーム兼コンサートホール。  
実は築20年を越える古ビルを全面改装したもの。



八ヶ岳山麓にある私立中学高校の山岳寮。  
130人を収容する。



東京の住宅密集地における間口わずか4mの  
3階建て住宅の居間。



カッティサーク1号2号

定年退職して7年目になります。退職後2年ほど  
関連会社に嘱託勤務した後、小田原市シルバー人材  
センター（約1,000人）に会員登録をしました。

現在は、センターの理事を務める傍ら、月に5～  
6日の施設管理の仕事をしています。

また、センターでパソコン教室のインストラクター  
を週1回と個人レッスンをやっており、結構忙しい  
日々です。

時間があると健康のためにウォーキングに励んで  
います。小田原は山あり海あり川あり、更に小田原  
城址をはじめとする名所旧跡が沢山あって、楽しい  
ウォーキングができます。

心身の「身」の方はウォーキングやゴルフ等でケ  
アできますが、「心」の方はボケ防止も含め頭や手先  
を使って常に脳細胞を活性化する必要があります。  
そのために私は、趣味として十年以上、木工細工に  
打ち込んでいます。

帆船のカッティサーク1号、2号に始まって、能面、  
法隆寺の五重塔、金堂、薬師寺の東塔、ロッキングチェ  
ア、神輿等を作り上げ、現在は興福寺の五重塔作  
りに励んでいます。法隆寺の五重塔は高さが約110  
cmあり完成までに1年かかりました。

また、パソコンで水彩画を描いたりビデオ動画の  
編集を楽しんでいます。そのうちに、スケッチブック  
を持って小田原の景色を描き歩くつもりです。

生活をエンジョイし長生きするには、仲間作りや  
ノミニケーションも必要ですが、自分が打ち込め  
るものを持つことは何よりも大切なことと思います。



能面



法隆寺金堂



法隆寺五重の塔



薬師寺三重の塔



早川港



ロッキングチェア



御輿

## 短歌と私

6組 榮 憲道 sarara@hm8.aitai.ne.jp

一昨年（2006年）、私が現在住んでいる長久手（愛知県愛知郡長久手町）にある短歌の会に入会した。

短歌や俳句は、それまでそのときどきの気分で創作して、年賀状や暑中見舞いに添えたりエッセイの中に組み入れたりしていた。しかし全くの自己流であり、特に系統立って学んだり、教えを受けたことはなかった。

そんな私だったが、「短歌にももう少し深く関わってみようかな・・・」、短歌のほうが性格的に向いていそうとの思いがあった。また俳句に造詣の深い姉から、師系など俳諧の厄介な世界を知らされ、私が姉に送った作品比較では、「俳句より短歌の方が合う」との助言もあった。前期高齢者の指標ともいえる65歳も過ぎ、テニスやジョギングに代わる生き甲斐を創る必要もあった。

その年の六月初旬、地元のいろいろな文芸グループの展示会が町役場の一角で開かれた。妻の所属している『ちぎり絵の会』も参加したが、その閉会時、私は妻とクルマで出向きその撤去を手伝った。

たまたま隣のグループが、短冊に自作品を発表し

ていた『長久手短歌の会』。活動内容など尋ねると、「ぜひ、どうぞ」との誘いを受け、七月の例会に顔を出した。

いかにもおだやかな初老の先生のリードで、オバサンたちがそれぞれ二首を出し合い、歌の詠み合わせをし、順番に解説、意見交換していく。私はオブザーバーのつもりで隅の方に控えていたが、いろいろ訊かれるので、いつもの悪い癖が出て、やや辛めの歌評を遠慮勝ちに述べた。

あまり形式にこだわらない和やかな会であり、そのまま入会したが、どちらかといえば同好会的雰囲気楽しんでた。

それから1年半経った今年四月、思い立って、その上部組織である《灯短歌会》の同人に参画することとした。毎月歌誌を発行し、吟行会もある。東海地区のいくつかの歌会を横断した結社の団体で、長久手の会の先生が代表を務めており、以前から誘われていた・・・。

毎月一連七首の歌稿を提出、披露するようになって数ヶ月、まだまだ未熟な私ではあるが、いつの日か作品集を自費出版しようと考え、メモ帳片手に時々を過ごす日課となっている。

（完）

—追記—

まさに“60の手習い”、そんな私のこんな『短歌入門記』ですが、この2年間に詠い溜めた作品のなかから、近況報告も兼ねたものを7首選び、謹んで校友の諸兄にご披露させていただきます。皆さんもどうかご自愛ください。

【今を生きる】

- ・ 黙然と対座せしま時過ぎぬ  
妻はちぎり絵吾は歌詠み
- ・ 今池のいきつけの店今日もまた  
酒に笑いに歌に囲碁あり  
(注) 今池＝名古屋の下町的繁華街
- ・ 布団干し掃除ゴミ出し吾が出番  
足腰弱き妻を気遣う
- ・ 拡大鏡部屋の各所に置きにけり  
日毎弱まる視力哀しき
- ・ 差し歯取り口すばめたるその顔に  
「八十翁」と妻は笑えり
- ・ 濡れ縁に飽きることなく空眺め  
日向ぼこする老父老犬
- ・ 慶びはともに望みし児が生まる  
息子にむすこ娘にむすめ

（2008年7月記）

大正時代の書生節に塩原秩峰の「ジョージアソング」なんてえのがありますが、「♪ラ～メちゃんたらギッチョンチョンで、パイのパイのパイ、パリコとパナナで、フライフライフライ♪」ってやつです。

何でも元はと言えば、印度の留学生か亡命者が唄ったのを皆が真似したんだそうですが、「ラメちゃん」とは当時デタラメばかり言う輩、特に政治家や官僚それに悪徳商人のことを皮肉ったんだそうです。他のカタカナの部分は日本語としてはナンセンスの部分だそうです。



## ◇◇◇スーパーマーケットで◇◇◇

とにかく邪魔というか、だらしがないというか、何しろ通路のど真ん中やレジの脇に堂々と放置された買い物かごやカートの数々。スーパーに行くたびに目にする光景であります。

こういうことを平気でする大人のいる家庭では、食後の流し台は、次の食事まで汚れた食器類が山積みになっているだろうし、便器にはいつも焦げ茶色のものがへばりついているだろうし、多分ケツにも。

まあ、「屁の三徳」ってえのもあるから、快適な屁でもかましてクリーンアップしたらいい。「胸すき腹すき心地よく、人を笑わせ喜ばせ、肛門の塵を吹っ飛ばす。」ってやつです。



合いました。この2本の町道は、どちらも元の地主は町会議員の身内のものだったそうです。

で問題なのは、どちらも利用価値が全くないってことなんでありませう。上の道路は地元で「犬の散歩道」と呼ばれているもので、ある土曜日の午後、1時間いましたが、その間車は1台も通らなかったんです。観光客が多いと云われる土曜日にですよ。

下の写真は、「仙石原緑道」と言って自然環境に配慮した道路(128.5m)のモデル区間だそうです。自然環境に配慮するならば何も造らないことが良いと思うが？これは町民の血税を無駄遣いする土木行政の悪い例です。だいたい財政破産した複数の輩からなる町議達を含む〇〇会という談合の巢のような会で成り立つ町議会、役場の職員から這い上がった町長、住民

の37人に1人が町の職員であることから、平均3人家族として12所帯のうち1所帯が町役場に関係しているわけです。であるから、選挙が行われても、その時点で行政改革などとはほど遠い行政の構図が出来



## ◇◇◇血税の無駄遣い◇◇◇

箱根の景観に影響を与えるものは何かと御大層な目的であちこち回っていたらこんな道路に巡り

あがってしまうのであります。因みに総人口に対する職員数の比率は、次のようになります。箱根町 2.6%、大磯町 0.8%、二宮町 0.9%、真鶴町 1.3%、開成町 0.6%、湯河原町 1.2%。箱根はダントツで多すぎるでしょう!!

### ◇◇◇交差点で◇◇◇

とにかく信号無視が堂々で行われているのに積極的に取り締まらない警察。信号の黄色は「注意して走行する」なんていい加減な指導をする交通行政だから無理はないが。交差点の前から「あっ、黄色だ。それっ、行っちゃえ。」どころか、赤々なんてお粗末なものをつくるから、「多分左右からは来ねえだろう。」なんて突っ込み野郎やイケイケ姉ちゃんが出てくるんです。

何キロオーバーなんてケチなスピード取り締まりなんかしてないで、事故の多い交差点の取り締まりをやらなきゃ駄目だよ、お巡りさん。検挙率も高く、違反金の収入も増えるし。

どうも交差点の通過はそういうものだということが殆どのドライバーに定着してしまっているようです。「みんなでやれば怖くない」なんて怖いこと言わないで、運転にプライドとメリハリを持たなきゃあ。何んでもっともらしいこと言っちゃっ



上も下も赤で突っ込む車両。まれまれに反対側が青になっても突っ込む危険なドライバーもいます。

て、その後、違反で捕まったりして、いまんとこゴールド免許だけど。「♪あーとは知らない、二人は若い〜♪」って、知ってる？

### ◇◇◇ちょっとゲスっぽい話◇◇◇

奏音(カナネ)という3歳の孫娘がいて、私が風呂に入っていると側に来て、私のヘソ下を指さし、「ジッタン(私のこと)それなあに」と興味津々に聞きますので、「オチンチンだよ」と教えたら、これが大間違いのもと、何しろ6人の同居家族のうち男は私だけですから、ごもっともかも知りませんが。

で、ある日、例の唄を「♪カ〜ナちゃんたら、ギッチョンチョンで、パイのパイのパイ、マンゴとバナナでフライフライフライ♪」等といい加減なことを教えたら、乗りのよいメロデーなので、直ぐに覚えられてしまい、幾らも時間が経たないうちに「♪ジッタンたら、ギッチョンチョンで、パイのパイのパイ、マ〇〇と〇〇コで、フライフライフライ♪」なんてアレンジされちゃいました。「お父さん、変なこと教えなくて!」・・・娘にこっぴどく叱られました。おまけに女房も同調して「おたんちんねえ!」なんて云うから、こっちもつい「おたんまん!」なんて放送禁止用語が出てしまうのであります。

### ◇◇◇うんとゲスっぽい話◇◇◇

ついでですが、「デ」のつくことばに「デバカメ」なんて覗きのスケベ野郎を指すのがありますが、以前、明治から続く箱根のある老舗旅館しにせの板前から、こんな話を聞きました。その旅館の調理場の天井裏には客室まで続く太い角材が置いてあり、覗きの秘密ルートになっていたそうです。

昔はモーターなんてありませんし、お楽しみはいわゆる連れ込み旅館か温泉宿が利用されていました。また、ポルノ映画なんてえのものもありませんでしたから、実演がテキストだったようです。

まあ、ラメちゃんは周囲にも、学校の同期にも猫目犬科の悪徳なのが居るかも知れませんから、気をつけなくちゃあ。

では、ゲスっぽい話はそのくらいにして、♪ラ〜メちゃんたら、ギッチョンチョンで、パイの、パイの Bye. ♪

「高校3年生」という歌に、「僕ら離ればなれになろうともクラス仲間はいつまでも」というのがあります。高校を卒業して50年ほどたって、クラスの仲間の情報交換ができるのは嬉しいことです。発起人の方々に感謝します。

私は、高校卒業後仙台の学校に行き、田舎に下宿し茅葺の家に住みました。部活は自動車部に属し、車で近くの松島などに行ったりして遊びました。

### <<企業戦士から脱サラ>>

卒業後、建築会社に就職し、国内では仙台や弘前、東京、国外ではクエート(4ヶ月)イラク(1年半)やインドネシア(4年)、シンガポール(5年)等で仕事をしました。



インドを一人で旅をしている時、テント生活をしている人の家に泊まりこみ、おばあちゃん達に親切にされました。そのとき人と人とのつながりの大切さに気づきました。その体験が企業をやめ田舎暮らしを考えるきっかけになりました。



インドでのテント生活

そのころ日本は、「受験戦争」「企業戦士」という呼び方があるように、高度成長時代をまっしぐらに進

んでいました。私は、企業で働きながらも何か疑問を感じ、みんなが助け合いで生きる理想郷を夢見ていました。

1992年に脱サラをして、岩手県の奥羽山脈の中にある沢内村に移住しました。

ここで百姓のまねごとをする傍ら、豊富な自然と地域の助け合いの中で生きている「結いの文化」を体験しました。子供たちはお母さんの仕事を手伝いながら土の上で元気に遊んでいました。そんな姿を見て、東京の塾通いをする子供たちとどちらが幸せなのだろうと考えこんでしまいました。



岩手県和賀郡沢内村(和賀郡西和賀町)

### <<世の中の変化>>

都会出身の私は、高校を卒業するころから受験戦争を抜け、企業戦士となりました。マイホーム主義反対を唱え、外で何が起きているか分からないまま、国民競って、自分のために会社のためになりふりかまわず働きました。1960年頃の高度成長の時でした。

一方、農村の人たちは出稼ぎという形で都会に流れ始めました。中学卒業生は「金の卵」と言われ高度成長期を支える貴重な労働力として珍重され、次々に都会の工場に高賃金で雇われていきました。就職列車が仕立てられ、青森や岩手から青少年を満載した特別列車が上野に向けて走ったのです。

そうして、過疎化していく農村では、今までの牛馬での農耕に変わり、耕耘機が登場し、いままでも家族総出の農作業が簡単に一人でできる機械農業に変わったのです。若い働き手のいなくなった農村では、とうちゃん、かあちゃん、ばあちゃんによる「三ちゃん農業」で農地を守ったのです。

牛馬がいなくなり、田畑には堆肥の代わりに石油から作られた、化学肥料が次々に撒かれ、田の草よりは、稲以外の草を枯れさせてしまう除草剤の散布

で楽になりました。田んぼにハゼ掛けをし、天日で乾燥して作った稲作法に代わり、機械で刈り取ると同時に籾にして人工乾燥する稲作法が普及しました。

この、高度成長期は日本人にとっても未来の地球にとっても、まさにバラ色だと思われたのです。科学が私たちの生活を改善し楽にし、未来に問題は全くないと思っていたのです。

### <<重大な過ちを犯した>>

もちろん、このことが重大な問題を含んでいるということを気づいていた人はいたと思います。レイチェル・カーソンの「沈黙の春」、有吉佐和子の「複合汚染」などの本が出たのはその頃です。しかし、大部分の人は自分の幸福のためという理由で、高度成長の片棒を担いだわけです。

そして、1990年頃から、この行き過ぎの矛盾が表面に出始めてきました。それは農村から始まります。極端な人口の過疎化、工業化の行き過ぎによる輸出入のアンバランスから生じた減反政策、それが農村人口の都市流出、農家の嫁不足、後継者不足、自給率の低下に拍車をかけたのです。そして、自然界も農薬による生態系への影響はひどく、貴重な動植物が次々に絶滅していきました。

農村問題は一部の問題としてそれほど表面化しないのですが、生活に直結するエネルギー問題は真剣に捕らえられました。しかし、地球に蓄えられた石油は無尽蔵ではないと分かっているにもかかわらず、油田を探せば何百年もあるという学者もいて、楽観主義の私たちは、自分の生きている間は大丈夫だという最悪の判断で、その後の対策を立てずにきました。

1976年に日本にオイルショックというのがありました。これは、アラブの産油国で先進国の言いなりになって石油をとられたのでは自国にメリットがないと、短期間ですが輸出を止めたことがありました。そのとき日本国内は一時的に大混乱が起きました。

銀座のネオンが消え、NHKの放送が11時までとなり、電車が間引き運転され、スーパーではトイレトペーパーを買いだめする主婦の行列ができたのです。私はこのとき、イラクで仕事をしていて、国内の混乱は直に見たわけではないのですが、現地の新聞で知りました。私の勤める清水建設でも対策会議が頻繁に開かれていました。しかし、このときの教訓は結局何も生かされずに、日本は自力で油田を開発しこのピンチを乗り越え、それまで以上に高度成長を走ってしまいました。

### <<地球レベルの問題>>

地球レベルの問題は、エネルギーばかりではありません。環境の悪化、温暖化現象、オゾン層の破壊、異常気象、砂漠化、一部の人口増加による飢饉などいろいろ起こっています。これらの問題は、今のところ、先進国では科学の力、経済力でカバーされ、一般住民には気づかないところで進行していますが、その限界を超えたときは大変なことになります。

### <<もっと怖い社会問題>>

またそれよりも身近で恐い問題が社会問題です。この問題はおそらく環境やエネルギー問題より早期に表面化するでしょう。経済的自立をバックに地域コミュニティ、家族関係の崩壊が起こっているのです。

私たち人間は一人では生きられないのです、動物も植物も同じです。それぞれこの世界で役割を持って、お互い助け合いながら生きるのが正しい生き方なのです。それが、お金という媒介物で模擬的に単独で生きることができるとしてしまったのです。

この結果、顔の見えないコミュニケーションが一般的になり、嘘、偽り、騙し合いの中で、協力、思いやり、良心、助け合いという人間生活で欠かせない要素が失われてしまいました。そして、そのような社会で異常を感じ、耐えられなくなった人々が、登校拒否、引きこもり、家庭内暴力、校内暴力、子供の虐待、動機不明の犯罪を引き起こしているのです。

### <<解決の道が見えない>>

この異常な社会現象にとられた対策は、刑罰の強化、少年法の見直し、学校や行政の管理強化など負の対策ばかりです。このようなコミュニケーション不足を補うインターネットという新しいコミュニケーションの手段も、今は一部の金儲けの手段に使われるに従い、逆の効果に働いています。携帯電話の普及も同じです。

さて、ここまでで、この地球上でそして社会で問題が山積みされています。

### <<解決の道は田舎にある>>

私は、沢内村に住んで、たくさんのお年寄りから、昔、自動車も電気も石油も何もないけれど、地域全体で助け合って生きてきた話を聞きました。その生き方こそ今の歪んでしまった社会を再生する方法なのではないかと確信しました。

## <<若い人の力を借りたい>>

そして、環境、教育などの面で世直しの努力をしなくてはならないと思いました。

しかし、その思いは強くても、どうしても力が足りないのです。中年を過ぎた私たちには、若い人、中学生、高校生、大学生たちのように、空き缶一つに憤りを感じ行動を起こせる鋭い感性と無心の行動力がなくなってしまいました。

若い人たちに世直しを頼むしかないと思っています。

もちろん、このような世の中をつくってしまった私たちに責任を感じます。特に、私たちがしなくてはならないことは、50年前にこの地球は、そしてこの世の中はどうであったかを若い人にしっかり伝えることではないかと思えます。それを参考に、若い人たちに政治、経済、芸術、地域活動、あらゆる分野で行動を起こしていただきたいのです。

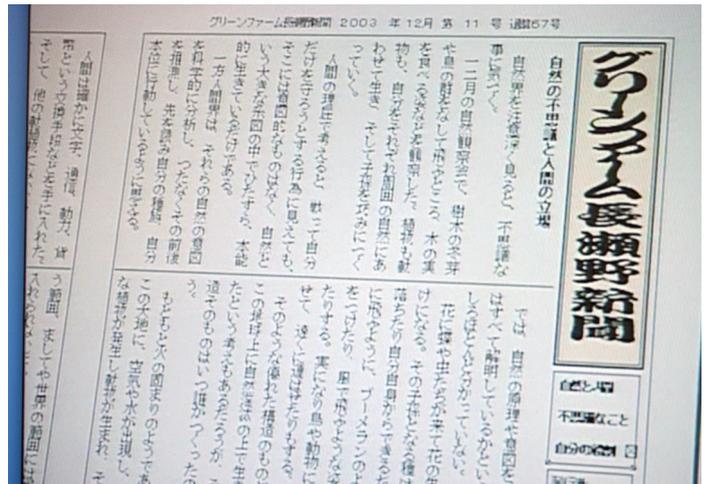
このような思いから、これまでNPO 活動をしながらかつての生活や文化を伝えてきました。

この度、健康上の理由でU ターンをしなくてはなくなり、15年間過ごした田舎を離れました。

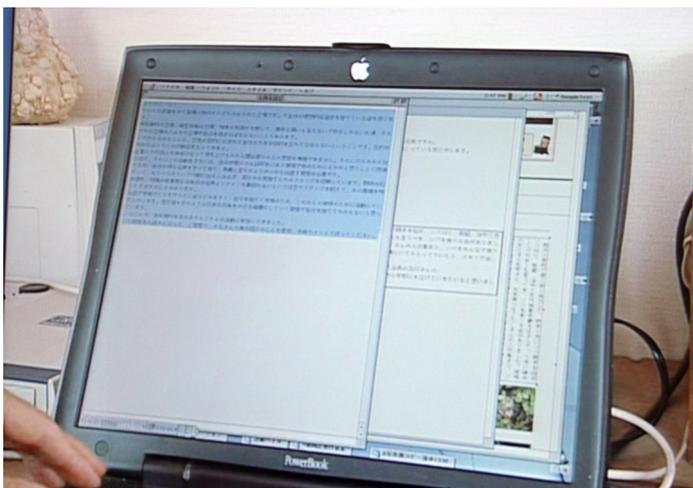
これからは郷里の近くで生活をしますので、皆さんにもお会いすることもあると思っています。



西和賀の自然と文化



グリーンファーム長瀬野新聞



G3 時代の Apple Power Book

わが「西和賀の自然と文化」や「グリーンファーム長瀬野新聞」等の編集には何代にもわたるアップルのマッキントッシュを使用しました。

## 次号予告

次号は 2009 年 4 月 1 日発行の予定です。

- ・原稿受付開始 2009 年 1 月 1 日
- ・原稿締め切り 2009 年 3 月 15 日
- ・原稿送り先 [cimamichi@juno.dti.ne.jp](mailto:cimamichi@juno.dti.ne.jp)

原稿のテキストは MS Word かテキスト専用ソフトで作成するようお願い致します。文字数は特に制限いたしません。写真は別途 JPEG、TIFF、PDF ファイル形式で送って下さい。鮮明な画像にするにはデジタルカメラの解像度で中くらい以上が望ましいです。

画像を含めた独自のレイアウトをご希望の場合は、上記 2 点とは別に、レイアウト全体を PDF 化してお送り下さい

皆様からの投稿をお待ちします。

# 富士山に登ろう

4組 小澤敦男 atsuo-ozawa@hotmail.co.jp

何時からか還暦を過ぎたら毎年富士山に登ろうと考えていました。そしてそれを元気の証にしよう。しばらく山から遠ざかっていたので、最終的には安達太良山で足慣らしをして、2001年7月友人と須走登山口へ向かいました。子供の時に一度富士山に登っていても、どこから入ったかも覚えてなく事実上の初挑戦です。本七合(3,250 m)に泊まり、翌朝富士山頂でご来光を拝み、お鉢めぐりをするのがおおまかな計画です。

天気が良く大体予定通りで、無事に山頂でご来光を見ることができ感激しました。

お鉢めぐりは、日本最高点の剣が峰の登りが少しきついで360度の眺望を楽しめました。

初回は天候に恵まれました。

翌年とその次の年は、一人だったこともあって、日帰り登山をしました。7時ごろ登り始め13時過ぎに山頂に着きます。特に頂上近くの急な登りはきつく、お鉢めぐりをする元気を失い、いずれも少し休息しですぐ下山しました。



富士山頂の賑わい



登山口近くの小富士からの富士山（10月）



山頂で剣が峰をバックに



宿泊地点から山中湖方面を見下ろす

4年目は同じコースへ家内をつれて行きました。前年に退職していますが、会社の中で富士に登りたいと言っていた人を連れて、この年はもう一度、今度は御殿場口から登りました。このコースは標高の低いところからスタートするため、登山時間が長く、特に健脚向けのコースです。大砂走りがあって下山には快適なコースです。

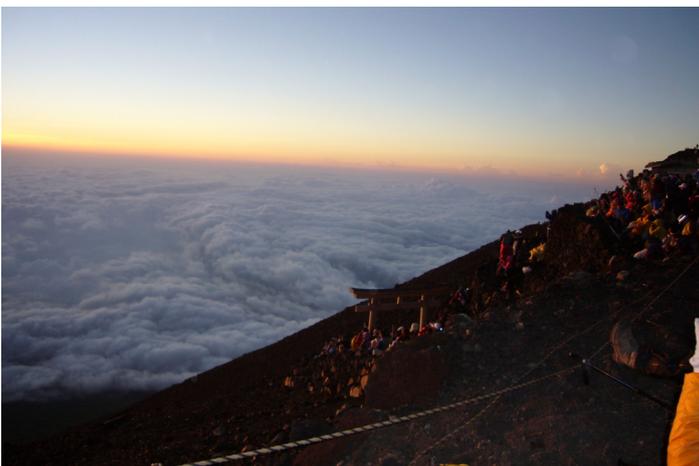


富士山頂浅間大社奥宮の石碑  
この日は雨でした

5年目は、近くに出張で来ていた人と一緒に河口湖から登りました。このコースは8合目ぐらいで須走口と合流し、下山コースも途中迄同じため、間違えて須走に降りてしまう人がいるようです。登山中ずっと雨でしたが、奇跡的にご来光を見ることができました。



山頂から見たご来光、  
毎回雲海の中から登ってきました



山頂でご来光を待つ人、人、人

6年目は、やはり会社関係の二人と須走口から入り無事山頂まで行き着きました。

7年目の去年は、5月にアキレス腱を切ってしまい残念ながら連続登山が途絶えました。

そして今年、足の痙攣などあったけど山頂でご来光を見ることができました。

天気の良い時の富士山は、登りのきついのは仕方ないとして、登山道も整備されてそんなに難しい山ではないと思いますが、雨に風が加わると一変しますので、ある水準以上の装備は必要ですし、高山病で体調を崩す人がかなりいますので、あまり安易に考えないほうがいいです。

年々途中がきつくなっていますが、体力の現状維持を図って来年また挑戦できたらと思っています。



山頂からの眺望



終点が見えても、急登が続く、コース中のもっともきついところ